

専門英語（4年） コーディネーター：病態生理学分野 佐原資謹教授
 歯科矯正学分野 間山寿代講師

担当講座（分野）： 教養教育センター外国語学科英語分野
 FR コース（補綴・インプラント学分野）、SmAD コース（口腔顔面再建学講座）
 AST コース（口腔顔面再建学講座）、TxChild コース（口腔保健育成学講座）、
 AD コース（補綴・インプラント学分野、歯科保存学講座）

第 4 学年 前・後期	講義		演習	実習
	前期	3.0 時間	0 時間	0 時間
後期	10.5 時間	1.5 時間	0 時間	

教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1) 医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2) 教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上に必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（ディプロマ・ポリシー：7、8）

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、テキストを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。WebCass にテキストの音声ファイルを公開する。本内容は全授業に対して該当するものとする。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月11日(火) 1限	FRコース 担当教員	歯学の基本用語 1 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 補綴領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 補綴領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
7月23日(火) 4限	SmADコース 担当教員	歯学の基本用語 2 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. SmAD のコースを通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. SmAD のコースを通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
9月24日(火) 4限	ASTコース 担当教員	歯学の基本用語 3 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 口腔外科領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 口腔外科領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：口腔外科領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答しておく。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月11日(金) 4限 10月18日(金) 4限 10月25日(金) 4限 11月1日(金) 4限	James Hobbs 教授 (教養教育センター外国語学科 英語分野)	Chair side conversation 英語圏の患者に対し歯科 治療を行う際に必要なコ ミュニケーション力を習 得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①]
11月18日(月) 2限	TxChild コース 担当教員	歯学の基本用語 4 臨床でよく使われる歯学 用語を理解する。	1. 小児・障害者・矯正歯科領域に関連した 基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 小児・障害者・矯正歯科領域で使われる 歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：講義までにテキストにある問題 を解答しておく。専門用語について調べて 講義に臨むこと。
12月11日(水) 4限	AD コース 担当教員	歯学の基本用語 5 臨床でよく使われる歯学 用語を理解する。	1. AD のコースを通して学習した内容に関連 した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. AD のコースを通して学習した内容につい て、臨床の場で使われる歯学用語を英語 で説明できる。 [A-7-2)-①]
12月16日(月) 4限	James Hobbs 教 授(教養教育セ ンター外国語 学科英語分野) 佐原資謹教授 (病態生理学分 野) 間山寿代講師 (歯科矯正学分 野)	Chair side conversati on と歯学の基本用語／演習 (到達度評価試験)	1. 客観的な評価(到達度評価試験)をうけ、 達成度と理解度を知る。 2. 結果のフィードバックをうけ、英語での 理解度、コミュニケーション力の向上を はかる。

教科書・参考書 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書 名	著者氏名	発行所	発行年
参	Dental Terminology 3 rd ed	Charline M Dofka	Delmar Cengage Learning	2013年
推	Medical Terminology A short course 8th ed.	Davi-Ellen Chabner	Saunders	2017年

成績評価方法

個々の英語力の多様なレベルに対応できるよう、ネイティブスピーカーによる対話形式の授業(教養教育センター教員担当)と、各コースの臨床系講座(分野)教員によるグループ学習、または対話形式の授業でおこない、到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。

特記事項・その他

- ・3年までに学習した英語・英単語を基礎に、将来必要とされる英語を用いたコミュニケーション力を養うため、ディスカッション・プレゼンテーション方式の講義を行う。そのためには3年次のテキストを必ず復習して講義に臨む必要がある。その上で臨床に用いられる各コースの専門英語を習得する。講義の途中あるいは最後にクリッカー、WebClassを活用して学生の理解度を逐次確認する場合がある。
- ・学生参加型講義を実施するために、各実施予定日には講義室でインターネットに必ず接続できるよう予め接続可能なPC、タブレット、スマートフォン等を準備しておくこと。
- ・WebClassにテキストの音声ファイルを公開するので、活用し理解度を向上させること。
- ・到達度評価試験により達成度と理解度を評価し、試験答案の返却（フィードバック）をおこなう。各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。